

ベノミル・TPN水和剤 ダコレート水和剤	取扱メーカー： クミカ、住友化学 原体メーカー： 住友化学、エス・ディー・エス
成分： ベノミル〔ベンズイミダゾール系 PRTR・1種〕…20.0% TPN〔有機塩素系 PRTR・1種〕……………50.0% その他 PRTR 該当成分： ほう素化合物〔PRTR・1種〕……………0～2.0% カルベンダジム〔PRTR・2種〕……………0～1.1%	性状： 類白色水和性粉末63μm以下 毒性： 普通物 消防法： —

【品目特性】……………

- TPNの予防，ベノミルの予防，治療両効果を併せもつので，処理時期の幅が広い。
- イネ苗立枯病，もも灰星病，ホモブシス腐敗病などに防除効果がある。
- イネ苗立枯病の病原菌であるリゾープス属菌，トリコデルマ属菌，フザリウム属菌などに防除効果がある。
- ももの灰星病の場合，ベノミルは菌そう生育阻止効果，TPNは孢子発芽阻止効果が見られ処理適期幅が広い。
- 残効性があるので輸送中などの腐敗防止効果がある。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

〈稲(箱育苗)の苗立枯病防止〉

- は種前又は，は種後の灌水時期で多発するおそれのある場合は400倍，1箱当り0.5ℓ 灌注で使用する。

〈もも〉

- 灰星病，ホモブシス腐敗病の防除適期である収穫20日前～収穫3日前をねらって散布する。
- 所定量に少量の水を加え糊状にねり，所要量の水を加え十分にかきまぜる。
- 調製液は速やかに使用する。

【薬効・薬害等の注意】……………

- ボルドー液，石灰硫黄合剤などのアルカリ性薬剤との混用はさける。
- 稲の緑化期に使用する場合，発病後の処理では効果が劣ることがあるので注意する。

【安全対策上の注意】……………

- 蚕に対して影響があるので，周辺の桑葉にはかからないようにする。
- 魚類に影響を及ぼすので，使用时並びに使用後も注意。
- 散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。



【適用と使用法】

作物名	適用病害名	希釈 倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用 方法	ベノミルを含む農 薬の総使用回数	TPNを含む農 薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 (苗いもち)	400 倍	育苗箱* 1 箱当り 0.5 ℓ	は種時	1 回	灌注	2 回以内 (種子への処理 は 1 回以内, 床 土への混和は 1 回以内)	2 回以内
	苗立枯病 (リゾープス菌)	400 ～ 600 倍		は種時から 緑化期 但し, は種 14 日 後まで	2 回以内			
	苗立枯病 (トリコデルマ菌)	800 ～ 1200 倍						
	苗立枯病 (フザリウム菌)							
も も	灰星病 ホモフシス腐敗病 果実赤点病	1000 ～ 1500 倍	200 ～ 700 ℓ	3 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内	6 回以内
	黒星病 枝折病 すすかび病	1000 倍						
	アスパラガス		茎枯病 斑点病	100 ～ 500 ℓ	収穫 終了後		4 回以内	5 回以内 (種子粉衣は 1 回以内, は種 後は 4 回以内)
たまねぎ	灰色かび病		800 倍	100 ～ 300 ℓ	7 日前 まで		6 回以内	8 回以内 (種子粉衣は 1 回以内, 育苗 培土混和, 灌 注または苗根 部浸漬は合計 1 回以内, 散布 は 6 回以内)
レタス	べと病 灰色かび病 すそ枯病	1500 倍	14 日前 まで		3 回以内		5 回以内 (種子粉衣は 1 回以内, は種 後は 4 回以内)	5 回以内 (土壌灌注 は 2 回以 内, 散布は 3 回以内)
キャベツ	根朽病 菌核病 べと病	1000 倍			2 回以内		7 回以内 (種子粉衣は 1 回以内, は種 後は 6 回以内)	3 回以内 (は種又は 定植前の土 壌混和は 1 回以内, 散 布及びエア ゾル剤の噴 射は合計 2 回以内)
はくさい	黒斑病 べと病 菌核病		7 日前 まで				3 回以内 (種子粉衣は 1 回以内, は種 後は 2 回以内)	3 回以内 (は種又は 定植前の土 壌混和は 1 回以内, 散 布は 2 回以 内)

* 育苗箱は 30×60×3 cm, 使用土壌約 5 ℓ